

キャリア引退犬におけるストレスの評価 ～非侵襲的測定法の有用性について～

○加藤万知¹⁾ 増田麻子¹⁾ 林英明¹⁾ 加藤淳一²⁾ 辻恵子²⁾ 佐野忠士¹⁾

1) 酪農学園大学 獣医学群 2) 公益財団法人北海道盲導犬協会 3) 北海道大学附属動物病院

【背景・目的】盲導犬とはユーザーが外出する際、安全に目的地へ誘導するために特別に訓練され、交通機関および公共・民間施設にも入ることが認められた犬である。一般的に約12歳齢前後で引退を迎えるが、引退後の犬たちに関する情報は非常に少なくその詳細は明らかでない。そこで今回、飼育環境の異なるキャリア引退犬を対象にストレス関連物質の測定を行い、その評価を行った。

【材料と方法】老犬飼育委託ボランティア宅（以下、ボランティア宅）で飼育されているキャリア引退犬2頭（雄のラブラドルレトリバー1頭、雌のゴールデンレトリバー1頭）および公益財団法人北海道盲導犬協会の老犬ホーム（以下、老犬ホーム）で飼育されているキャリア引退犬2頭（雄のラブラドルレトリバー1頭、雌のラブラドルレトリバーとゴールデンレトリバーのMIX1頭）の血液・唾液を1ヶ月毎に行った。採取した血液および唾液からコルチゾール値を測定した。血液および唾液コルチゾール値の結果は散布図にし、相関係数および寄与率（ r^2 値）を算出し、両者の相関性について検証した。

【結果】測定結果は右図のように示され、相関係数0.67、寄与率（ r^2 値）0.45であった。ボランティア宅および老犬ホームのいずれにおいても特徴的な変動のパターンは示されていないが、唾液中コルチゾール値はいずれも正常値より低値での推移であった。

【考察】血液中および唾液中コルチゾール値の間に

は比較的良好な正の相関性が示され、非侵襲的に採取される唾液から血液中コルチゾール値の推定が可能である可能性が示唆された。両者のストレスに対する反応性への時間的な差を考慮すると、採血時のストレスや、サンプル採取直前にかかったストレス状況を良好に反映したものと考察される。今回得られた全てのサンプルの測定値が、過去に報告されている唾液中コルチゾール値と比べ低値を示していた。動物の感じるストレスについては様々な要因が考えられ、気温や湿度の変化や、飼料の変化など飼育環境におけるストレスといった慢性・蓄積性のストレスも影響すると考えられる。今回は比較的即時的な反応を示すストレス関連物質測定での評価を行ったが、今後はさらに複合的な状態評価について検討していく必要があると考えられる。

